

911.1
4

蝦夷文

陸奥名所寄

陸奥名所志

白河内 同郡

白河

内山有古道八里河乃云
今河通東之新明神有

阿波隈川

捨隈川水上云々

加鴻

白河城下分十町余東

櫻岡

白河西甲子温泉山昇
流出仙基荒溪云海
流稻葉渡可為云々
加多之上山有云

轉寢社

加鴻ヨリ少東

懷山

古道越但馬云
里ニ新知山云々

二方山

懷山遠奥方ニ子極云

神田里

二方山ヨリヲク

岩瀨山

同郡同社云同宜瀨加川譯
小岩瀨山云和歌中同名

二股川

岩瀨郡内ニ股云云
温泉山ノ流也

二本松内

音登川

安積郡

郡山澤小

安積山

同郡目沼目和田云々
小治二里塚有東山云

安達山

同郡田野原
安達大郎二本松高云
温泉山云々

黒塚

二本松城下分十町余東

山井

行平云里有浅香山旭乳梅云

福室内

密語橋

信支那福徳寺云會橋有云

信支山

同園同社同系同系摺
福徳寺塔今山云々

恩山

福徳寺西常東云云

經山

同社東嶽中辰神社
云々

小川橋

蒸山西分流小川云七月七月
毎年水地底潛云是弘法
加持云々

慈徳山

恩山近云々

桑折内

葛松系

伊達郡桑折分西赤湯町
道ノ間云々

阿武松系

上二近云

押園

月池桑折分折幸田山幸田
冥同池の中辰東山嶽分云々
一通今有名押園云々

下飯

冥貝田小菅山伊達大木云

仙臺内

不立山

新田云月那神社別當
山号云々

直野萱原

新田郡白石澤分貞信

栗約山 忍原大河原澤ノ方云々

俾園 同上

武隈松

忍原澤ノ中社有是傳道祖傳云々云々

蒸浦 荒溪ノ所云々ノ松不審從下為

若取川

同郡同里同湯仙基ノ所云々

青羽山

仙基城內云々

小島池

仙基町內云々

木下

仙基ノ松池ノ東端有

文櫻系

同郡同野

十府

同浦

未松山

松山未松本松云有

塩竈

同浦千賀浦字傳云傳

松池

松池浦傳推傳同被傳

八十傳

庚傳地傳漢合

龍池

可為

龍池同波皆全所云々

金山

小黒傳師葉松橋迎云々

陸真山 金義山之松傳東見山云々

金山

同上

緒池橋 楮澤郡內ノ可為

戸池橋

同上

十瀬橋 楮澤鉗刺內ノ可為

朽木橋

同上

面如橋 同上

山摘園

楮澤內玉田撰野荒野牧尾穀牧真牧同所之牧云々

女取原 鉗刺內云々

末雲

同川日平泉嶺

名取川 楮刺楮澤死

市師系

楮澤內云々

壺碑

多賀地内云々

有耶系

市田郡山取海道云々所之有耶嶺下云々有案云々

衣山

市田郡園ノ東川端ノ傾城森山伏木林云有謂寔社死云々

多葉嶽山

此山今荒王出扶云山有泉仙基市田郡西山取林下流山十年山嶽ノ流山神社有雷西行真跡短尺有云々是出那之

南部内

岩提山 月国同表同家同小野内里
以山名陸多難物以山明神之
社内西行真跡經天有東ノ
海山云云

奥海 沖石南部津佐ノ内平島

赤都溪 南部津佐真云 狭布
里可尋云

津佐内

常般橋

南部津佐ノ夷治溪内
常般橋云有北内ノ橋云

津佐小野 同真

夷治 南部津佐ノ溪海

熊田内

立野 上山ノ讀

秋田 坂下ノ下島云云

袖渡 袖浦熊田坂田云北内ノ有若家死云云可尋

會津内

會津山 同根同家今坂代山下云
指苗代湖東上山有云云

岩城内

白米溪 菊田郡冥田云上山云云
元冥八浦座僅有云

野田 同入江同
玉川一橋

岩城山 同溪

木奴才溪 上ノ本ノ云波立寺西行
真跡經尺有云云

標葉坑 標葉郡今岩城平城下ノ
小ノ内之云云

相馬内

宇治郡 中村城下比有北郡云

不知所

深津山 萬古注に常陸に云

子持山 陸奥新三有不知所

奥郡 石田に不知

東奥同上

横尾 新撰之云

志取川 同上

二股川 新撰之云

泉源 同上

影

山部

陸奥にありし限川のりすそふ人の所此山をり

讀人不知

ちちのりもの三つことこの白を無にりしとありし

讀人不知

志取山岩の下ありしち悲ひ人のそなる流てを好路

讀人不知

ちちのりもの三つことこの白を無にりしとありし

讀人不知

ちちのりもの三つことこの白を無にりしとありし

讀人不知

ちちのりもの三つことこの白を無にりしとありし

讀人不知

ちちのりもの三つことこの白を無にりしとありし

讀人不知

ちちのりもの三つことこの白を無にりしとありし

讀人不知

ちちのりもの三つことこの白を無にりしとありし

讀人不知

ちちのりもの三つことこの白を無にりしとありし

讀人不知

ふたりのあふの里の道はあはれいさといふ山の言根をいふも

いふ心ぬまうのちのりつりてやきよ山の名をいふも

いふけてわづいひ山の時きひよりけあかの座あまくド

みちのくの薬師山志村のまはれよりあまく清りりり

うり山の山おれりり維よりとあまをいふいひきりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

いふせりりりり山志村のまはれよりあまく清りりり

西行

良教

肥後

人丸

後念

私宣

故書

長徳

式雙

光苑

太上天皇

淡山

後念

後念

後念

後念

後念

後念

後念

後念

後念

後念

後念

後念

後念

後念

後念

後念

後念

後念

後念

後念

白波のあそびあかえりてとらるるもあふ風吹来り松よま

浦りもよまの松よまふれとあそびりてをほやとあそ

をのつしま浪あつてとあねん来の松山男麻鴨りり

おーもあそまの松山波とてはくは神い海と合

波敷りもあや株のうつりて人宮城と糸の末れ松山

鮎袖は若ふあつす糸の松山浦りり波のたぬあそ

あつ波のうすもあそびりてあつ波のたぬあそ

あつ波のうすもあそびりてあつ波のたぬあそ

松山とあつりて人あつ波のたぬあそ

あつ波のうすもあそびりてあつ波のたぬあそ

あつ波のうすもあそびりてあつ波のたぬあそ

あつ波のうすもあそびりてあつ波のたぬあそ

あつ波のうすもあそびりてあつ波のたぬあそ

あつ波のうすもあそびりてあつ波のたぬあそ

あつ波のうすもあそびりてあつ波のたぬあそ

あつ波のうすもあそびりてあつ波のたぬあそ

あつ波のうすもあそびりてあつ波のたぬあそ

あつ波のうすもあそびりてあつ波のたぬあそ

あつ波のうすもあそびりてあつ波のたぬあそ

あつ波のうすもあそびりてあつ波のたぬあそ

あつ波のうすもあそびりてあつ波のたぬあそ

あつ波のうすもあそびりてあつ波のたぬあそ

あつ波のうすもあそびりてあつ波のたぬあそ

あつ波のうすもあそびりてあつ波のたぬあそ

益永

女房

家隆

内侍

後成女

伊勢

定束

紀伊

お家

家持

人丸

浦親

弘雅

お家

因助

西行

好忠

西行

俊成

後成

仲實

月

素

月

後撰

新古

續後撰

續拾

新撰

月

素

月

後撰

新古

續後撰

續拾

新撰

月

素

月

後撰

新古

續後撰

續拾

新撰

五音

かうくけ 藤お今津此山ありて入るありあるさる四りなり

木本

岩城おきけ 此の多ぬある物を意せし一意の松ありすとて

後新古

約おひむ 岩城の山をいふて人をもぬしれ 後新古とぬん

万十一

みちのきり 深津清山をいふてきもきり月足録のさるる

木本

あましらふ 岩をいふてをいひあまあまのしとてさむ花を略

園部

栞さくさくさくさの栞らからぬさるるあり 後栞あり

後古

あまのしとてさるる花のきり花ありしは 後古とて後を略

木本

あまもあまをゆらんあまをいふなり 木本とて行を略

木本

さちのくふありとてあまのきり花ありしは 木本とて後を略

同

陸奥のしは 陸奥のしは 陸奥のしは 陸奥のしは 陸奥のしは

同

陸奥の千夜の浦をいふなり 陸奥の千夜をいふなり

日

とえとこのつとての云れ思つて 日とてあまのしは

根部

陸奥の吾田をいふなり 陸奥の吾田をいふなり

同

みらくのあまをいふなり 陸奥のあまをいふなり

古新

陸奥の安をいふなり 陸奥の安をいふなり

万

今津根の西をいふなり 今津根の西をいふなり

森部

かたかりうたぬの杜栞をいふなり 源順

新後古

あけやうをいふなり 新後古とてあまのしは

新物撰

すむ里の甚れ森のやうにすこの下をいふなり 後新古

千載

涼をいふなり 千載とてあまのしは

日 くらゆり世目の入はるひるの栴はほくともをゆるふる 政村

名詞之音首 関部

日 信ありふ都(信)きよふゆ秘もまふを越えぬる白河の雲 唯徳院

日 白河の雲れきくらのゆら津はあつてしを夜すのじし 定家

拾遺 日 白河の雲れせだまりのむもとまらる津のらとまらし 家隆

拾遺 日 けらうゆらふらふも秘もまふを白河の雲の雲の雲の雲 魚成

拾遺 日 秘をいふとさうりふあし秘を秋風と吹きくく六の雲 能因

日 秘のいふとさうりふあし秘を秋風と吹きくく六の雲 長家

日 秘のいふとさうりふあし秘を秋風と吹きくく六の雲 定頼

日 秘のいふとさうりふあし秘を秋風と吹きくく六の雲 長道

日 秘のいふとさうりふあし秘を秋風と吹きくく六の雲 後成

日 秘のいふとさうりふあし秘を秋風と吹きくく六の雲 頼政

日 秘のいふとさうりふあし秘を秋風と吹きくく六の雲 良治

日 秘のいふとさうりふあし秘を秋風と吹きくく六の雲 兼遠

日 秘のいふとさうりふあし秘を秋風と吹きくく六の雲 法師

日 秘のいふとさうりふあし秘を秋風と吹きくく六の雲 頼軌

日 秘のいふとさうりふあし秘を秋風と吹きくく六の雲 法師

日 秘のいふとさうりふあし秘を秋風と吹きくく六の雲 法師

日 秘のいふとさうりふあし秘を秋風と吹きくく六の雲 源 邦長

日 秘のいふとさうりふあし秘を秋風と吹きくく六の雲 貞重

日 秘のいふとさうりふあし秘を秋風と吹きくく六の雲 因助

日 秘のいふとさうりふあし秘を秋風と吹きくく六の雲 紀伊

日 秘のいふとさうりふあし秘を秋風と吹きくく六の雲 忠守

かえりてさる年より書ぬ若毒海や虎て歎く

際傳 法師 上人

新千

千五

新拾

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

光景ふるふんふんうらやまをまきとてさるつら白河の雲

しと月やうらやまをさるつら白河の雲

月をさるふんふん白河の雲

秋凡ふんふん川の雲

秋凡ふんふん川の雲

秋凡ふんふん川の雲

秋凡ふんふん川の雲

秋凡ふんふん川の雲

秋凡ふんふん川の雲

秋凡ふんふん川の雲

秋凡ふんふん川の雲

秋凡ふんふん川の雲

秋凡ふんふん川の雲

秋凡ふんふん川の雲

秋凡ふんふん川の雲

秋凡ふんふん川の雲

秋凡ふんふん川の雲

秋凡ふんふん川の雲

秋凡ふんふん川の雲

秋凡ふんふん川の雲

秋凡ふんふん川の雲

秋凡ふんふん川の雲

秋凡ふんふん川の雲

秋凡ふんふん川の雲

秋凡ふんふん川の雲

秋凡ふんふん川の雲

秋凡ふんふん川の雲

東鑑真列下白喉右大將頼朝

梶原をたて徳園の言のまゝにまじり

かゝりてまじり

源吉

系家

建治三年秋白河の雲を道より西行法師が

用を月のとらぬ中候をまじりて用をの柱を

白の書付もたけとちじ人の真れとてふはとて 二遍入

同時後より書付ゆ

白人を弥陀のちりひふとてはとて若とてとてむは白の上人

懐くは白の上人とては白の上人

わと和哥連のたけ白の上人とては白の上人

等の連歌師今能治のり脚者てて後白

不よりいふは白の上人

思誠の東山 水戸海に居る水通

金津西 山 白の道より海道碑アリ

米

白の書付もたけとちじ人の真れとてふはとて 甲斐

白の書付もたけとちじ人の真れとてふはとて 能宣

白の書付もたけとちじ人の真れとてふはとて 讀人不知

白の書付もたけとちじ人の真れとてふはとて 公道

白の書付もたけとちじ人の真れとてふはとて 後人不知

白の書付もたけとちじ人の真れとてふはとて 知泉寺

白の書付もたけとちじ人の真れとてふはとて 後人不知

白の書付もたけとちじ人の真れとてふはとて 後人不知

白の書付もたけとちじ人の真れとてふはとて 国助

白の書付もたけとちじ人の真れとてふはとて 孫沖

白の書付もたけとちじ人の真れとてふはとて 寺内院

白の書付もたけとちじ人の真れとてふはとて 糸運

白の書付もたけとちじ人の真れとてふはとて 後頼

武王のいしきしきしお抜おすぬあやしきらむわくの實使入ふ

其本

後撰

まらふふらひの美こぬとてわいすくじぬる油小

法橋

全葉

千載

後百

後百拾

新抄

後千載

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

まらふふらひの美こぬとてわいすくじぬる油小

まらふふらひの美こぬとてわいすくじぬる油小

まらふふらひの美こぬとてわいすくじぬる油小

まらふふらひの美こぬとてわいすくじぬる油小

まらふふらひの美こぬとてわいすくじぬる油小

まらふふらひの美こぬとてわいすくじぬる油小

まらふふらひの美こぬとてわいすくじぬる油小

まらふふらひの美こぬとてわいすくじぬる油小

まらふふらひの美こぬとてわいすくじぬる油小

まらふふらひの美こぬとてわいすくじぬる油小

まらふふらひの美こぬとてわいすくじぬる油小

まらふふらひの美こぬとてわいすくじぬる油小

まらふふらひの美こぬとてわいすくじぬる油小

まらふふらひの美こぬとてわいすくじぬる油小

まらふふらひの美こぬとてわいすくじぬる油小

まらふふらひの美こぬとてわいすくじぬる油小

まらふふらひの美こぬとてわいすくじぬる油小

ま本

日

深野のむらりの小菰下りて葉のほろぬおさる月うま行まは

日

之さき野守の唐ふりつらじ秋りたすりぬををん家隆

日

深野のむらりの小菰をうしてすの藤屋をいれぬをいれ

日

ふゆや野系のををかり衣月ふまうする秋りたすり

日

ふ深野のさう根ふぬききりすおれと根宿やぬを

日

宮城野の白土椿をり改ん八丈の敷ふてとまあらん

日

ふ深野のま葛ふまうす好月ふぬをさる小男藤の

日

とりつあをま回横ぬ離れ約法しの園ふあせひ花咲

日

とじぬも人ふしてのねもふまうす干種の花をひりる防

ま本

えとら位津作の小野の藤さかりと深木の三つあらん

日

番ふれそらの物ふま約のまうすいぬ田のあは

日

花落ふりふまうすけぬ権方の三つとまふ小藤喘し

日

陸奥のまきぬぬの物ふもとしとらりくぬくおお

日

ふらのくのおちらの物巨野銅ふあをまきぬかつぬ

日

ふ後の奥の物りるあうすをふりるおの春のよの草

日

部部里

拾

物名

ま本

あさりのあさりのあひつふまうすあうらとらあをま

日

陸奥の枝布のあうらとら織布のせまきふえふ

日

りやまあふの細布とらふあひんてあをぬと

日

もらのりのよのぬをぬぬとぬと物あひぬぬとす

日

お花のさうらぬねむしぬを誰うぬぬすまよの巾

日

あさりぬをまうすをねむしぬを誰うぬぬすまよの巾

日

御本の子ぬあぬぬ今うすまうすぬぬのぬぬ

日

そのとらぬぬとらぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

日

運序

同

つうふ千朱折ぬる湯まの枝ころすぬおののさか 永實

千音

きくさあくあつを待し湯まの枝つらまき人ころすぬお待た

つて候ともありいとめてき湯まのさすまらおや(置) 仲實

湯本の千朱の敷いとくしとあつらひ湯のさすまら 弘仲

湯本の千朱おやあつらん物あくおさるおさるえつら 永海法師

紙奉へ具のさつらえひすけとあもひあつらいつて あり

貝合あひ ころのくさぬのほりのけしぬ貝合せくとぬれし後方の

湯百 本物の標系とあひお合りしてをさるおえつらとあ 弘仲

千載 千早振神田の雲の裾あけし月とあひひくさるさ 護念知

新古 あやあつてもあつらあつらとあつらあつら秋のあつら あり

新勅撰 湯本のさつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら 西行

傳真のさつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら あり

ま本 湯まのさつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら 道具

あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら 後成

同 ころのくさぬのほりのけしぬ貝合せくとぬれし後方の

湯百 本物の標系とあひお合りしてをさるおえつらとあ 弘仲

千載 千早振神田の雲の裾あけし月とあひひくさるさ 護念知

新古 あやあつてもあつらあつらとあつらあつら秋のあつら あり

新勅撰 湯本のさつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら 西行

傳真のさつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら あり

ま本 湯まのさつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら 道具

あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら 後成

同 ころのくさぬのほりのけしぬ貝合せくとぬれし後方の

湯百 本物の標系とあひお合りしてをさるおえつらとあ 弘仲

千載 千早振神田の雲の裾あけし月とあひひくさるさ 護念知

新古 あやあつてもあつらあつらとあつらあつら秋のあつら あり

新勅撰 湯本のさつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら 西行

傳真のさつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら あり

ま本 湯まのさつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら 道具

あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら 後成

同 ころのくさぬのほりのけしぬ貝合せくとぬれし後方の

湯百 本物の標系とあひお合りしてをさるおえつらとあ 弘仲

千載 千早振神田の雲の裾あけし月とあひひくさるさ 護念知

新古 あやあつてもあつらあつらとあつらあつら秋のあつら あり

新勅撰 湯本のさつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら 西行

傳真のさつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら あり

ま本 湯まのさつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら 道具

あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら 後成

同 ころのくさぬのほりのけしぬ貝合せくとぬれし後方の

湯百 本物の標系とあひお合りしてをさるおえつらとあ 弘仲

千載 千早振神田の雲の裾あけし月とあひひくさるさ 護念知

新古 あやあつてもあつらあつらとあつらあつら秋のあつら あり

新勅撰 湯本のさつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら 西行

傳真のさつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら あり

鴻部

玉井

神片、多里、正位、手、無座、和尙、手、給、く、後、寺、傳、記、三、委

白河の波の座あり黒石をよそとぬらつてあつら

活順

後頼

弘孝

具氏

紀伊

隆光

弘仲

西行

護念知

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

使ある凡と吹と松橋ふくせくひさしに筆のり年は

新古

松橋の波は心筆の條のそとほつ物とふまひのそかハ

長明

浦丸や夜をそとく人書橋也筆のたるふ夜うあり

土門院

松橋ふかき流波の柵とあるふ夜のけりありあり

西門院

松橋ふかき流波の柵とあるふ夜のけりありあり

入道宮

松橋の筆の首筆もいふくし流の筆人夜ありあり

保氏

松橋の筆の首筆もいふくし流の筆人夜ありあり

雲井ノ

松橋の筆の首筆もいふくし流の筆人夜ありあり

社家

松橋の筆の首筆もいふくし流の筆人夜ありあり

社家

松橋の筆の首筆もいふくし流の筆人夜ありあり

社家

松橋の筆の首筆もいふくし流の筆人夜ありあり

社家

松橋の筆の首筆もいふくし流の筆人夜ありあり

社家

西院の筆もくーからりめひておるおせ

あひま彩彩時お院の中橋の松をふして去

後撰

青ふくく松浦橋りふくしむもくあま八夜なる

系性法師

松浦の筆の首筆もいふくし流の筆人夜ありあり

松浦

松浦の筆の首筆もいふくし流の筆人夜ありあり

松浦

松浦の筆の首筆もいふくし流の筆人夜ありあり

松浦

松浦の筆の首筆もいふくし流の筆人夜ありあり

松浦

松浦の筆の首筆もいふくし流の筆人夜ありあり

松浦

松浦の筆の首筆もいふくし流の筆人夜ありあり

松浦

松浦の筆の首筆もいふくし流の筆人夜ありあり

松浦

松浦の筆の首筆もいふくし流の筆人夜ありあり

松浦

松浦の筆の首筆もいふくし流の筆人夜ありあり

松浦

日 立むりもあてん松崎や権崎の公名は海におあすか 俊成

新 後撰 藤原権家よりとめて松崎や何まの海に鳴く月影 今齊製

自 後撰 海をわしよの運命のぬきころもかき移て袖に波をたれん 有家

千 昔 あひんてと余波りよの運命ハもさこの沖を袖ぬき引 良手

日 業人の海あぬ袖もこゆるん権崎の波は月さる夜 道具

明 後撰 権崎の松は梢より雲よりさかしく 登乃袖舟 ち隆

拾 卯花のさくら垣根やみちのくの籬の海はととる 源信明

續 後撰 夕園小窓の淡火はつらつらよりさこの海の野ありたり 好忠

秋 芳の籬の海は屋をこしてささきもささきもささきもささき 實量

お月つが末の松はいつあくん色の海をこゆるあし 能宣

日 春凡小海ありん陸真れ色の海は柳のこらか貝 俊頼

千 歌 運命の住まう紀の海は淡火ふらふらとささきもささきもささき 魚度

ま 本 陸電の浦吹凡小舟晴さあ八十海にけてすめ月影 清補

日 八十海の小海のえをささきもささきもささきもささき 同

新 後撰 あをわしよもあし陸電の海はわかれの松の友を待 頼氏

後 撰 陸電のおふささきもささきもささきもささきもささき 山主

ま 本 三月かまの浦に下海の曙小舟はあゆる海は海の小舟 後撰

日 うちのくさをささきもささきもささきもささきもささき 小所

日 浮海小舟なるかた陸真小流りこささきもささきもささき 乃仲

後 撰 浮海の松のささきもささきもささきもささきもささき 元補

日 知は海小舟をささきもささきもささきもささきもささき 云和

後 撰 小黒海美豆の小海小舟食する田海を鳴く海は 雲

小黒橋東直臣の古橋の夕暮お柳子小舟の舟すもも家隆

陸奥のえとらあつたの御子の御小舟あり法の文字ありり

このちやあつたの真ををてこももえとらあつたの御子の御

こももけの御子のえとら陸奥のえとらあつたの御子の御

秋意のあつたをわしあつたの御子の御小舟ありり

流橋の干橋の庚うらあつたの御子の御

浦部

目を治つ都也ふの浦さあつたの御子の御

うらあつたの御子の御小舟ありり

あつたの御子の御小舟ありり

人月のと也の浦さあつたの御子の御

陸奥のいつくあつたの御子の御

あつたの御子の御小舟ありり

あつたの御子の御小舟ありり

あつたの御子の御小舟ありり

あつたの御子の御小舟ありり

あつたの御子の御小舟ありり

あつたの御子の御小舟ありり

あつたの御子の御小舟ありり

あつたの御子の御小舟ありり

あつたの御子の御小舟ありり

あつたの御子の御小舟ありり

あつたの御子の御小舟ありり

あつたの御子の御小舟ありり

千五百

陸奥のちの北の海にけそ松のまのり沖の泊り松志良

三月の初小由の侯あまをのぬりひまねの松 後頼

川原のき松三郎のまあしねも松の松也男も三入 治信

小松受て物を想ひき陸奥の百部まする時を松志 松周

ふ子後神も目とありや松をあひく三月の松 松件

三月のあしきくううう松のまねし松の松 松件

青もまじりうまふ松の松の泊する松志良 松志

松志良の海すの松のまじり松志良のまじり 松志

松志良のまじり松志良の松志良の松志良 松志

松志良のまじり松志良の松志良の松志良 松志

松志良のまじり松志良の松志良の松志良 松志

松志良のまじり松志良の松志良の松志良 松志

松志良のまじり松志良の松志良の松志良 松志

松志良のまじり松志良の松志良の松志良 松志

松志良のまじり松志良の松志良の松志良 松志

松志良のまじり松志良の松志良の松志良 松志

松志良のまじり松志良の松志良の松志良 松志

松志良のまじり松志良の松志良の松志良 松志

松志良のまじり松志良の松志良の松志良 松志

松志良のまじり松志良の松志良の松志良 松志

松志良のまじり松志良の松志良の松志良 松志

松志良のまじり松志良の松志良の松志良 松志

松志良のまじり松志良の松志良の松志良 松志

松志良のまじり松志良の松志良の松志良 松志

順徳院

定家

松周

松件

松志

松志

松志

松志

松志

松志

松志

松志

松志

松志

松志

松志

松志

松志

松志

松志

松志

松志

松志

松志

新千

漢部

たつねもあつゝゝの真の河原の館あけて鳴あり
常盤井近

早葉

漢部

内倉

つゝゝの真の河原の館あけて鳴あり

家集本記(手巻) 冊

下流の真の河原の館あけて鳴あり
西行

早葉

つゝゝの真の河原の館あけて鳴あり
西行

陸奥の真の河原の館あけて鳴あり

つゝゝの真の河原の館あけて鳴あり

玉葉

夜部

つゝゝの真の河原の館あけて鳴あり
忠孝

つゝゝの真の河原の館あけて鳴あり
え捕

つゝゝの真の河原の館あけて鳴あり
左大臣

つゝゝの真の河原の館あけて鳴あり
重之

つゝゝの真の河原の館あけて鳴あり
内親王

つゝゝの真の河原の館あけて鳴あり
有家

つゝゝの真の河原の館あけて鳴あり
後成

つゝゝの真の河原の館あけて鳴あり
法師

つゝゝの真の河原の館あけて鳴あり
有家

つゝゝの真の河原の館あけて鳴あり
忠道

つゝゝの真の河原の館あけて鳴あり
家長

つゝゝの真の河原の館あけて鳴あり
道具

つゝゝの真の河原の館あけて鳴あり
保孝

つゝゝの真の河原の館あけて鳴あり
後成

江部 停部

野田の入口の浮くふありてとまりるの岸 舟家

舟家 舟の曲道にまゝ舟のまゝとてぬきとせ

三葉 舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

後徳寺 舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

後成 舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

後念寺 舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

川部

大次郎 舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

舟の曲のまゝにまゝとせ舟の葉末の乱てとせ

ま

深野の下のりのお花下りして葉のはらぬおさる月うま行まはし

月 子さき野守の彦あつころと秋のたすりあやをらん家隆

月 文殊野のちあつのお花をさるしてすの藤屋をいれぬお花

月 文殊野の野原の原をかり衣風ふまうする秋のたすり 文内

月 文殊野の首うねふあきまらすぬいれ指宿やあきさ 後徳手 九人

月 宮城野の白土椿をりぬん八丈の敷ふとをさあきん 法性寺

月 文殊野の青草あきす梅風ふあきさるお花をさるお花 家隆

月 ころつあをぬ国横地、離れ約法し、の国ふあせひ花咲 後頼

月 ことくも人ふしてそのお花ふとて千種の花をひりる物 隆源法師

月 文とら津持のお野の原さかりこも深木の三方あきん 親隆

月 青い丸をらの物お建約のまつりぬい郷田のあはし 野原 九人

月 花落が乃りふさけハ稚芳の三花をまふお花 大政大臣

後拾 文とら津持のお野の原さかりこも深木の三方あきん 季隆

月 後あつふさうとてぬいあきのまの甲角の比 宗号親王

月 秋の花咲とも金糸お花をさるお花の夕暮 雅智

月 文殊野の秋のうら花をまはしてすのちあきあひさる 定家

月 文殊野のあつちの部をぬいさるお花のうらとて 楳

後拾 則光のお花の信お陰具お下りて武隈のむす 季道

月 文殊野の松の二葉をさる人いふお花のうらとて 季道

月 文殊野の松の二葉をさる人いふお花のうらとて 季道

月 文殊野の松の二葉をさる人いふお花のうらとて 季道

月 文殊野の松の二葉をさる人いふお花のうらとて 季道

月 文殊野の松の二葉をさる人いふお花のうらとて 季道

月 文殊野の松の二葉をさる人いふお花のうらとて 季道

月 文殊野の松の二葉をさる人いふお花のうらとて 季道

[Faint, mostly illegible handwritten text in a cursive script, possibly a historical document or manuscript.]

跋

能因と獨行脚と一なる

此先西行 一 藤原氏の御縁

何れも東行なりと云ふ

踏切 一 舟を御人法に云ふ

都に云ふと云ふ 一 投りて云ふ

舟に云ふと云ふ 一 舟に云ふ

舟に云ふと云ふ 一 舟に云ふ

草書

草書